

III 作物別主要病害虫の発生動向、発生原因の解析及び防除概要

1 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	葉いもち	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：少	発生は平年よりやや少なかった。	いもち病の有効成分が含まれた箱施用剤が普及している。また気温が高く特に助長される気象ではなかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	穂いもち	平年：少 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	葉いもちが少なかったため、発生にくかったと考えられる。	出穗期を中心に防除が実施された。
	紋枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	発生は平年よりやや少なかった。	紋枯病の有効成分が含まれた箱施用剤の普及により、発生が抑制されたと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	白葉枯病	平年：一 前年：一	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査でわざかに確認された。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	もみ枯細菌病（もみ枯症）	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	薬剤防除により発生が抑制されたと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
	ごま葉枯病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	発生は平年より多かった。	本病は近年発生が増加傾向にある。夏期の高湿や地力低下などが原因と考えられる。	土壤改良剤の施用及び薬剤散布が実施された。
	黄化萎縮病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
	ばか苗病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	巡回調査では発生はみられなかった。	種子更新及び種子消毒により、抑制されたと考えられる。	種子消毒が実施されている。
	稻こうじ病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	気温が高く特に助長される気象ではなかったと考えられる。	本病を対象とした防除を行っていないほ場が多い。
	葉しよう褐変病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
	繭葉枯病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	ヒメトビウンカによる媒介が少なかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が使用された。また、繭葉枯病多発地域ではヒメトビウンカの防除の実施、抵抗性品種の導入が進められた。
	萎縮病	平年：一 前年：一	平年：やや多 前年：やや多	例年はみられないが、今年度は巡回調査でわざかに確認された。	ツマグロヨコバイによる媒介があったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が実施された。また、薬剤防除が実施された。
	ヒメトビウンカ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや多 前年：並	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや多かった。予察灯による誘殺数も平年より多く推移した。	近年、発生量・発生面積が減少傾向にあったが、気温が平年より高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。	長期残効性箱処理剤が使用された。繭葉枯病多発地域では抵抗性品種が導入されている。
	ツマグロヨコバイ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：やや少	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかったが、予察灯の誘殺数は平年より多く推移した。	防除を行った水田では発生が抑えられており、ほ場により発生量に差があると考えられる。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	ニカメイガ	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では平年よりやや少なかった。予察灯およびフェロモントラップによる誘殺数は、平年並～多く推移した。	近年、発生は少なく推移していたが、飼料米等、多様な品種が防除圧の低い中で栽培されており、発生の増加が懸念される。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	セジロウンカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかった。予察灯による誘殺数は、7月は平年より多かったが、その後は少なく推移した。	飛来量が平年より少なかったことに加え、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	トビイロウンカ	平年：並 前年：遅い	平年：少 前年：少	たたき落とし調査による捕獲数および予察灯の誘殺数とともに平年より少なかった。	飛来量が平年より少なかったことに加え、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入により増殖が抑えられた。	本種に効果の高い長期残効性箱処理剤が使用された。また、本田における防除が実施された。
	斑点米カメムシ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	5～7月の畦畔雜草すくい取り調査による捕獲数は平年並～やや多く、8～9月の水田内のすくい取り調査でも平年よりも多かった。優占種はアカスジカミカズ、アカヒゲホソミドリカミカズで、成熟期にはミナミアオカメムシ、イネカメムシが多発した。予察灯では平年よりも多く誘殺された。	気温が高かった影響により増殖が促進されたと考えられる。また、本田防除が徹底されないほ場では発生が増加した。	本田防除が出穗期以降1～2回実施された。
	イチモンジセセリ	平年：並 前年：遅い	平年：並 前年：並	発生は平年より遅かったものの、生育後半まで被害がみられた。	近年、少発生で経過している。	発生地域では本田防除が実施された。
	アワヨトウ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	近年、少発生で経過している。	対象とした防除はほとんど行われていない。
	コブノメイガ	平年：遅い 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	飛来量が少なかったと考えられる。	発生地域では本田防除が実施された。
	イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	適期防除が実施された。	長期残効性箱処理剤が使用された。
	イネドロオイムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	主に県東部の高冷地で発生する。巡回調査地点における被害率は平年並であった。	例年、発生は常発地域のみである。	箱処理剤が使用された。
	スクミリングガイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	県内各地で発生面積が拡大している。巡回調査では概ね平年並の発生であった。	近年、分布が拡大傾向にあり、温暖化により越冬量が増加している。	発生地では耕種的防除が実施され、一部では本田防除が実施された。
	フタオビコヤガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	巡回調査では平年並の発生であった。	近年被害が増加傾向にある。	多発の場合、防除が実施されることもある。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コムギ	さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：多	平年並の発生であった。	冬の気温が高めに推移したことから、春先は平年より多く見られたが、その後は平年並に落ちていた。	栽培暦で2回の薬剤散布を推奨している。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	作付品種が冬の気温が高めに推移したことから発生が多くなった	栽培暦で2回の薬剤散布を推奨している。
	赤かび病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：少	発生は平年よりやや多かった。	気温が高めに推移したことに加え、5月後半に降雨が続いたことから、特に収穫の遅い農地で発生が多くなった。	概ね薬剤散布が2回実施されている。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや多	巡回調査では平年より少ない発生であった。	今年は平年より少ない発生であった。なお、多発した場合であっても、天敵類の活動により最終的な密度は下がる。	本虫に対して薬剤散布はあまり実施されていない。
かんしょ	ハスモンヨトウ	平年：一 前年：少	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	6月の降水量が平年よりも多かつたため、本種の発生が抑制された。	本虫対象の防除はほとんど実施されなかつた。
	シロイチモジヨトウ	平年：一 前年：少	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	6月の降水量が平年よりも多かつたため、本種の発生が抑制された。	本虫対象の防除はほとんど実施されなかつた。
	ナカジロシタバ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	6月は平年並の発生だったが、その後減少した。	薬剤防除により、発生が抑制された。	本虫を対象に1～2回の防除が実施された。
	エビガラスズメ	平年：一 前年：少	平年：少 前年：少	6、8月に発生がみられた。	6月の降水量が平年よりも多かつたため、本種の発生が抑制された。	本虫対象の防除は実施されなかつた。
	イモキバガ	平年：並 前年：早い	平年：少 前年：多	7月に最も発生が多かつたが、平年に比べ少なかった。	6月の降水量が多く、本種の発生が抑制された。	本虫対象の防除は実施されなかつた。
茶	炭疽病	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：少	前年秋の発生が多く、春先には罹病歿葉が多く確認され、6月までは平年よりも多く推移した。7月以降は平年よりも少なく推移したが、一部茶園で秋芽での発生が目立った。	6月以降の新芽生育期に発病に好適な降雨が少なく、高温が続いたためだと考えられる。秋芽での発生は8月以降の新芽生育期に降雨が続いたためと考えられる。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	輪斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	3月の越冬病斑は平年よりも少なくなった。6月と8月は平年にくらべやや多い発生だったが、その他の月はほぼ平年並だった。	6月、8月の気温が高く推移したため。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	新梢枯死症	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	7月の発生量は少なかったが、8月以降は平年よりも発生が多かった。	8月以降気温が高く推移したため、発生が助長されたと考えられる。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	もち病	平年：早い 前年：遅い	平年：やや少 前年：少	平年に比べ発生が早く、5月、6月の発生が平年よりも多かった。一方、7月～10月の発生は、平年よりも少なかった。	5月～6月に発生に好適な降水があり、気温が高く推移したため発生が早まったと考えられる。また、7月以降は気温が適温よりも高く推移したため発生が抑えられたと考えられる。	一番茶以降の防除は圃場によって大きな差があり、完全に放任されている圃場から適切に管理されている圃場まで様々であった。
	チャハマキ	平年：やや早い 前年：並	平年：やや少 前年：少	春に越冬幼虫の発生が平年に比べ多かつたが、その後の発生は平年よりも少なかった。	暖冬により、越冬世代の発生が多かつた。	フェロモントラップ等を用いた成虫の発生調査に基づき、各世代の幼虫発生期に薬剤による防除が行われた。
	チャノコカクモンハマキ	平年：やや早い 前年：並	平年：やや少 前年：少	発生は平年並からやや少なかった。発生時期は平年よりもやや早くかった。	暖冬により、越冬世代の発生が平年並だった。	フェロモントラップ等を用いた成虫の発生調査に基づき、各世代の幼虫発生期に薬剤による防除が行われた。
	チャノホソガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	6月に発生が多くなったが、平年並の発生だった。	摘採時期と発生時期が合致して発生が抑制された。	二番茶以降の新芽生育初期に他の害虫との同時防除が行われた。
	ヨモギエダシャク	平年：並 前年：やや遅い	平年：やや多 前年：並	調査期間を通じて平年よりも発生がやや多かった。	気温が平年より高く推移し、本種の発生が助長された。	春先や、一番茶摘採後に薬剤防除が行われている。秋はハマキガと同時防除された。
	カンザワハダニ	平年：早い 前年：並	平年：多 前年：多	4月及び8月の発生が平年に比べ多かつた。	春期は暖冬により発生が助長され、夏期は7月の少雨で発生が助長された。	春先や、一番茶摘採後に薬剤防除が行われている。秋の防除は省かれることが多くなった。
	クワシロカイガラムシ	平年：早い 前年：並	平年：並 前年：多	4月の発生程度が平年に比べ少なかつた。そのほかの月は平年並だった。	夏期の気温が平年よりも高かつたが、降雨日数が少なかったため、夏期以降平年並の発生となった。	越冬期の2月に幼若ホルモン系殺虫剤を散布した茶園は防除効果が高い。幼虫期の除適期判定に有効積算温度法が活用された。
	チャノキイロアザミウマ	平年：早い 前年：早い	平年：やや多 前年：やや多	7月に発生が多くなり、平年に比べてやや多かった。春期及び秋期の発生が多かつた。	温暖化により、春期及び秋期の発生が増加している。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	チャノミドリヒメヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	調査機関を通じて、ほぼ平年よりも発生が多かつた。	温暖化により、春期及び秋期の発生が増加している。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	コミカンアブラムシ	平年：早い 前年：並	平年：少 前年：やや多	平年に比べ発生は少なかった。	断続的な豪雨により、本種の発生が抑制された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	ツマグロアオカスマカメ	平年：並 前年：やや遅い	平年：少 前年：少	平年に比べやや少発生だった。	断続的な豪雨により、本種の発生が抑制された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	チャノナガサビダニ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	5月は平年を上回る発生だった。	5月初旬までは降水量が平年より少なく、発生が助長された。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。
	チャトゲコナジラミ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	平年に比べ少発生だった。	近年、発生程度は減少傾向である。	二番茶生育期と二番茶以降の新芽生育初期に薬剤防除が実施された。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
温州みかん	黒点病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：少	発生時期は平年並であったが発生量は8月以降多い状態が続いた。	多発生傾向が続いており、ほ場内での発生源が増加していると考えられる。	防除は3～4回行われた。
	かいよう病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	平年並の発生であった。	適期防除が実施された。	防除は3～4回行われた。
	そうか病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	平年並の発生であった。	適期防除が実施された。	4月～5月に防除が行われた。
	ミカンハダニ	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：やや多 前年：やや多	3～5月及び7～8月に発生が増加し、平年よりやや発生が多かった。	高温少雨により発生が助長されたと考えられる。	冬季～6月にマシン油、夏秋季に必要に応じてダニ剤が散布された。
	チャノキイロアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	6～10月の果実への寄生及び被害は平年より少なかった。	適期防除が実施された。	防除は6～9月に行われた。
	ヤノネカイガラムシ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	葉及び果実への寄生は平年より少なかつた。	防除園地では発生が抑えられた。	冬季のマシン油散布と寄生枝の除去が実施された。
	ナシマルカイガラムシ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生はみられなかつた。	近年発生は少ない。	冬季にマシン油が散布された。
	ルビーロウムシ・ツノロウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	ツノロウムシは平年より少なかつた。ルビーロウムシは3月に平年より多かつたが、4月以降は平年よりやや少なかつた。	防除園地では発生が抑えられた。	夏季に薬剤防除が行われた。
	イセリヤカイガラムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	3月は平年より多かつたが、4月以降は平年より少なかつた。	防除園地では発生が抑えられた。	夏季に薬剤防除が行われた。
	カメムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：多い 前年：多い	7月頃までの越冬成虫の発生は少なかつたが、8月以降に新成虫が急増し、各地で被害が発生した。	ヒノキ・スギ球果の着果量は平年よりやや少なかつたが、夏季の高温少雨により本虫が急増し、果樹園に飛来したと考えられる。	病害虫防除所からの注意報、技術情報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。
中晩柑類	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	4月に平年より発生がやや多かつたが、5月以降は低密度で推移した。	有害虫の薬剤防除で本種の発生が抑えられた。	防除は行われていない。
	かいよう病	平年：並 前年：並	平年：並	3月に葉での発生はやや多かつたが、その後は平年並の発生であった。	適期防除が実施された。	春先・降雨前に銅剤散布が行われた。
なし	黒斑病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生はみられなかつた。	例年発生をみない。	春水・農水では、本種を対象とした防除は行われていない。
	赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	平年並の発生であった。	防除を行っている園地では発生は抑えられている。	3月下旬～4月に防除が行われた。
	黒星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	平年並の発生であった。	防除を行っている園地では発生は抑えられている。	3月下旬～7月に防除が行われた。
	ナシヒメンシンクイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生はみられなかつた。	薬剤防除が行われた。	5～8月に防除が行われた。
	ナンチビガ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生はみられなかつた。	例年発生は少ない。	防除は行われていない。
	カメムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：多い 前年：多い	7月頃までの越冬成虫の発生は少なかつたが、8月以降に新成虫が急増し、一部園地で被害が発生した。	ヒノキ・スギ球果の着果量は平年よりやや少なかつたが、夏季の高温少雨により本虫が急増し、果樹園に飛来したと考えられる。	病害虫防除所からの注意報、技術情報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	4～7月にかけて平年より少なかつた。	防除園地では発生が抑えられた。	4～5月に薬剤防除が行われた。
	ハマキムン類	平年：やや早い 前年：並	平年：少 前年：やや少	発生は少なかつた。	例年発生は少ない。	4～8月に薬剤防除が行われた。
	ハダニ類	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は少なかつた。	薬剤防除が行われた。	6～7月に薬剤防除が行われた。
	落葉病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	平年より多い発生であった。	ほ場間で発生量に差が大きく、発生は場での菌密度の増加が考えられる。	5月下旬～7月上旬に防除が行われた。
かき	うどんこ病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生はみられなかつた。	例年発生は少ない。	4月下旬～9月上旬に防除が行われた。
	カメムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：多い 前年：多い	7月頃までの越冬成虫の発生は少なかつたが、8月以降に新成虫が急増し、一部園地で被害が発生した。	ヒノキ・スギ球果の着果量は平年よりやや少なかつたが、夏季の高温少雨により本虫が急増し、果樹園に飛来したと考えられる。	病害虫防除所からの注意報、技術情報、予察情報をもとに、薬剤防除が行われた。
	カキノヘタムシガ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生はみられなかつた。	例年発生は少ない。	8月に防除が行われた。
	チャノキイロアザミウマ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生はみられなかつた。	適期防除が行われた。	6～8月に防除が行われた。
	カキクダアザミワーム	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生はみられなかつた。	例年発生は少ない。	6～8月に防除が行われた。
	フジコナカイガラムシ	平年：早い 前年：やや早い	平年：少 前年：やや少	平年より少なかつた。	適期防除が実施された。	6月と8月に防除が行われた。
	ハマキムン類	平年：やや早い 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	平年よりやや少なかつた。	適期防除が実施された。	4月、7月に防除が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	平年より少なかつた。	適期防除が実施された。	5～6月に防除が行われた。
	キウイフルーツかいよう病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	4月頃から発生が増加し、6月では例年より多い発生となつた。	発生圃場は罹病樹の伐採など対策が十分に行なわず、園内での伝染源が多くなっている。	4～5月に防除は2回程度行われた。
	疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	5月上旬から発生が見られたが、平年と比べ少発生であった。	適期防除により発生は概ね抑えられていたが、降雨により一部のほ場で発生した。	予防的防除を含め、3月～5月に防除が行われた。
ばれいしょ	ウイルス病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	発生はみられなかつた。	例年発生は少ない。	媒介虫であるアブラムシの防除が行われた。
	ニジュヤホンシントウムシ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	4月に一部ほ場で発生がみられた。	例年発生は少ない。発生要因は不明。	防除は行われていない。
	ジャガイモガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	発生はみられなかつた。	防除ほ場では発生が抑えられた。	薬剤防除、収穫物への寒冷紗の被覆、残さの放置をしないなどの対策を行っている。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	4月は平年より少なかつたが、5月は平年よりやや多かつた。	防除ほ場では発生が抑えられた。	薬剤防除が実施された。
	食葉性ヤガ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	5月に一部圃場で発生が認められた。	例年発生は少ない。	ヨトウガ主体の防除はほとんど行われていない。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ねぎ	さび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	栽培期間を通じて発生は認められなかつた。	近年の発生が少ない影響で、伝染源密度が低かったものと推定される。	本病対象の防除はほとんど行われていない。
	黒斑病	平年：遅い 前年：やや遅い	平年：少 前年：多	8月から11月までは発生が平年よりも少なかったが、12月は平年よりも発生が多かった。	9月の降水量が多かったものの、その後は平年よりも少雨で発生が抑制された。	平年並の防除はされている。
	ペト病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかつた。	例年発生が見られない。	本病対象の防除は行われていない。
	アブラムシ類	平年：早い 前年：早い	平年：多 前年：多	8月に発生が認められた。	近年発生はほとんど認められない。	育苗期に薬剤による防除が実施された。本ぼにおける防除は特に行われなかった。
	ネギハモグリバエ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	10月に最も発生が多くなつたが、平年よりも少発生だった。	8月の豪雨とその後の断続的な降雨により、発生が抑制された。	定植後に増加するため、防除が実施されている。
	ヨトウガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	調査期間を通じて発生は確認されなかつた。	近年ほとんど発生が認められない。	定植直後に他の害虫と同時に防除が実施された。
	シロイチモジヨトウ	平年：並 前年：やや遅い	平年：多 前年：並	調査期間を通じて発生が認められ、9月の発生が平年よりも多かった。	本種は葉身内部に食入するため降雨の影響が少なく、気温が高かつたことから発生が助長された。	平年並の防除が実施された。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや早い	平年：多 前年：多	9月及び10月に発生が認められた。	ネギでの発生は例年少ない。	平年並の防除が実施された。
	ネギアザミウマ	平年：やや遅い 前年：遅い	平年：少 前年：やや多	発生は平年よりも少なく、少発生だつた。	夏～秋期の豪雨により、増殖が抑制され少発生となつた。	定植直後に防除が実施されたが、その後は発生状況に応じて実施されている。
たまねぎ	さび病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	栽培期間を通じて発生は認められなかつた。	例年発生は少ない。	対象とした防除はあまり行われていない。
	ボトリチス菌による葉枯れ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	栽培期間を通じて発生は認められなかつた。	秋期に降雨が少なかったため、発生量が減少したと推察される。	対象とした防除はあまり行われていない。
	白色疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	栽培期間を通じて発生は認められなかつた。	本病は近年発生が少ないため、伝染源密度が極めて低いものと推察される。	対象とした防除はあまり行われていない。
	灰色腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	栽培期間を通じて発生が認められなかつた。	本病は近年発生が少ないため、伝染源密度が極めて低いものと推察される。	平年並の防除が実施された。
	腐敗病	平年：並 前年：早い	平年：多 前年：多	12月から発生が認められ、以降は調査期間を通して発生が多かった。	12月以降の気温が高く推移したため、発生が助長されたと推察される。	平年並の防除が実施された。
	ペト病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は見られなかつた。	例年発生は少ない。	対象とした防除はあまり行われていない。
	シロイチモジヨトウ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	11月に発生が認められ、発生量は平年よりもやや多かった。	本種は葉身内部に食入するため降雨の影響が少なく、気温が高かつたことから発生が助長された。	生育期前に防除が行われた。
	ネギハモグリバエ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	11、12月に発生が認められ、発生量は平年よりも少なかった。	8月の豪雨とその後の断続的な降雨により、発生が抑制された。	例年、育苗期から生育期前に防除が行われている。
	ネギアザミウマ	平年：並 前年：やや早い	平年：少 前年：並	栽培期間を通じて発生が認められたが、発生量は平年よりも少なかった。	8月の豪雨とその後の断続的な降雨により、発生が抑制された。	例年、育苗期から生育期中期に防除が行われている。
冬春トマト	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	12月に発生が認められた。	例年発生は少ない。	育苗期から生育期前に防除が行われている。
	疫病	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：多	一部で発生がみられた。	生育期間中の高温により作物の生育ベースが乱れたことで、防除が遅れ多発した。	下葉の除去及び薬剤防除が行われた。
	灰色かび病	平年：遅 前年：並	平年：多 前年：やや少	平年より多い発生であった。	高温により発生は平年よりも遅かったものの、燃料の価格高騰による暖房機の使用頻度の減少で、ハウス内の湿度が高くなつたことから、発生に好適な環境となつた。	下葉の除去、発生初期の発病葉のつみ取り及び薬剤防除が行われた。
	モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかつた。	アブラムシの発生もなく、近年発生が少ない。	特に防除は行われなかった。
	斑点病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかつた。	近年、発生が少なく伝染源が少ない。	特に防除は行われなかった。
	輪紋病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかつた。	発生が認められず、伝染源が少ない。	主に、灰色かび病、葉かび病、すすかび病と同時防除が行われている。
	萎ちよう病	平年：並 前年：早	平年：少 前年：少	一部で発生がみられた。	抵抗性台木を使用していない株で発生があった。ただし、養液栽培の普及などにより全般的な発生は少ない。	土耕栽培では土壌消毒が実施されている。また、抵抗性台木を導入している。
	炭疽病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は認められなかつた。	静岡県では例年発生しない。	特に防除は行われなかった。
	葉かび病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	発生は平年よりもやや多かった。	抵抗性品種を栽培しているほ場でも葉かび病の発生がみられており、レースを打破している可能性がある。暖房機の使用頻度減少により冬期以降ハウス内の湿度が高くなり、発生が増加した。	抵抗性品種の利用、下葉の除去、発病葉のつみ取り及び薬剤防除が行われた。
	黄化葉巻病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年よりも少なかった。	耐病性品種の普及により被害が軽減された。	コナジラミに対する薬剤防除と防虫ネットによる侵入阻止、耐病性品種の利用、発病株の抜取りが行われた。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：少	平年より多い発生であった。	生育期間中の高温により常に発生しやすい環境であった。	苗時、定植時、定植後において薬剤防除が実施された。また、施設開口部に防虫ネットを張る侵入防止対策、施設内部における黄色粘着版の設置による発生状況の把握・防除対策がとられた。
	アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	発生は認められなかつた。	例年発生は少ない。	コナジラミ類に対する薬剤防除により同時防除された。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	一部のほ場で一時に発生した。	例年発生は少ない。	発生がみられたほ場では防除が実施された。
	ハモグリバエ類	平年：遅 前年：並	平年：並 前年：やや少	発生は平年並であった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	生育初期に数回の薬剤防除が実施された。
	ハスモンヨトウ	平年：遅 前年：遅	平年：並 前年：少	発生は平年並であった。	夏～秋期にかけ多發したことにより、育苗期の被害があつたものの、薬剤防除により抑制された。	窓、側窓に防虫ネットが設置され、進入を抑制した。薬剤防除が実施された。
	オオタバコガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかつた。	近年、発生は減少している。	防虫ネットの設置、ハスモンヨトウに対する薬剤防除により同時防除された。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬 ダイコン	白さび病(ワッカ 症)	平年：遅 前年：遅	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	気温が平年より高めに推移したことか ら、発生しにくい環境となった。	常発地では予防散布が行われた。
	黒腐病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	例年発生は少ない。	薬剤の予防散布が実施された。
	黒斑細菌病	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：多	一部で多発したは場があつた。	風通しが良く強風の影響を受けやすい は場で発生が多かった。	薬剤の予防散布が実施された。
	モザイク病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：多	発生は平年よりやや少なかった。	媒介虫であるアブラムシ類の発生は多 かったが、ウイルス保毒率は低かった とみられる。	アブラムシ類の薬剤防除が実施され た。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	発生は平年より多かった。	気温が高く推移したことから、増殖が 助長された。	年内に数回の薬剤防除が実施された。
	コナガ	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：少	発生は平年より多かった。フェロモント ラップによる誘殺数は、浜松市では平年 より多かったが、牧之原市では平年より 少なく推移した。	気温が高く推移したことから、増殖が 助長された。	年内に数回の薬剤防除が実施された。
	ナモグリバエ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：多	発生量は平年よりやや少なかった。	作の後半になるにつれ、発生は増加す る。	本種に対して効果の高い薬剤により防 除された。
レタス	灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく、伝染源が少な い。	薬剤防除が行われた。
	軟腐病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく、伝染源が少な い。	薬剤防除が行われた。
	腐敗病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	薬剤防除が行われた。
	斑点細菌病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	常発地を中心に薬剤散布が行われた。
	萎黄病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年発生は見られない。	特に防除は行われなかった。
	菌核病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	薬剤防除、罹病株の撤去が行われた。
	ペと病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	前年も少発生で、伝染源が少なかつ た。また気温が高く発生しにくい環境 であった。	薬剤防除が行われた。トンネル被覆後 は換気が行われた。
	アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：多 前年：少	11月までは平年より少なかったが、12月 以降多くなった。	気温が高く推移したことで増殖が助長 された。	被覆前の生育前期に薬剤防除が実施さ れた。
	ハスマントトウ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	育苗期に多発したが、ほ場での発生は平 年より少なかった。	育苗期に多発したが、ほ場での発生は平 年より少なかった。	育苗期や被覆前の生育前期に薬剤防除 が実施された。
	モザイク病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	例年発生は認められていない。	媒介虫のアブラムシ類の発生は多かつ たものの、保毒虫は少なかったと考え られる。	アブラムシに対して被覆前の生育前期 に薬剤防除が実施された。
キャベツ	すそ枯病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	近年、発生が少なく、伝染源が少な い。	薬剤防除、罹病株の撤去が行われた。
	ピックベイン病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年よりやや少ない発生であった。	気温が高く推移したため、発生しにく い環境であった。	薬剤防除、罹病株の撤去が行われた。
	黒腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：多	12月に発生が認められたが、生育期間を 通して、発生は少なかった。	台風の襲来もなく、発病が促進されな かった。	平年並の薬剤防除は行われた。
	軟腐病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	生育期間を通して、発生は認められな かった。	台風の襲来もなく、発病が促進されな かった。	平年並の薬剤防除は行われた。
	菌核病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	調査期間を通して、発生は認められな かった。	薬剤防除により発生が抑えられた。	平年並の薬剤防除は行われた。
	コナガ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	発生は認められなかった。	8月の豪雨とその後の断続的な降雨に より、発生が抑制された。	例年、育苗期から生育期中期に防除が 行われている。
	アブラムシ類	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：少	12月に発生が認められた。	8月の豪雨とその後の断続的な降雨に より、発生が抑制された。	定植直後に防除が実施されたが、その 後は発生状況に応じて実施されてい る。
	ハスマントトウ	平年：並 前年：一	平年：多 前年：多	10月に発生が認められた。	断続的な降雨により、防除時期が遅れ た。	例年、育苗期から生育中期に防除が行 われている。
	シロイチモジョトウ	平年：並 前年：一	平年：多 前年：多	調査期間を通して発生が認められ、平年 よりも多い発生だった。	断続的な降雨により、防除時期が遅れ た。	例年、育苗期から生育中期に同時防除 されている。
	ヨトウガ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生は認められなかった。	生育期前半にチョウ目害虫の防除が実 施され、例年認められない。	例年、育苗期から生育中期に防除が行 われている。
いちご	タマナギンウワバ	平年：並 前年：やや早い	平年：多 前年：少	調査機関を通じて発生が認められ、発生 量は平年よりも多かった。	一部のほ場でやや多く発生していた。	例年、育苗期から生育中期に防除が行 われている。
	オオタバコガ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：少	10、11月に発生が認められ、発生量は平 年よりも多かった。	一部のほ場でやや多く発生していた。	例年、育苗期から生育中期に防除が行 われている。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一部ほ場でわずかに発生したのみで、ほ ぼ発生が見られなかった。	近年、発生が少なく伝染源も少ない。 適切に防除され、発生が抑制された。	定期的な薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一部ほ場でわずかに発生したのみで、ほ ぼ発生が見られなかった。	近年、発生が少なく伝染源も少ない。 適切に防除され、発生が抑制された。	薬剤散布が徹底され、罹病した葉・果 実の除去も行われた。
	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	発生は平年並であった。	近年、多発年が続いたことにより、防 除、罹病苗の除去が徹底され、育苗期 の発生は少なかった。ただし、3月の 本ほ場では平年よりも多かった。	定期的な薬剤散布が行われた。ほ場で は発病株の抜き取りが行われた。
	モザイク病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	発生は見られなかった。	例年発生は少ない。	防除は行われていない。
	角斑細菌病	平年：一 前年：一	平年：一 前年：一	発生は見られなかった。	雨除け育苗により防除され、罹病苗の 使用がなくなった。	防除は行われていない。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	平年よりやや多かった。	発生初期に防除できなかったことで、 ほ場により多発を招いた。	薬剤散布または天敵放飼が行われた。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	12月～2月にかけて発生がやや多かっ た。	天敵放飼の時期が遅れたり、発生初期 に薬剤散布できなかった。	天敵を利用したほ場では、天敵に対し て影響の小さい薬剤が散布された。
	ハスマントトウ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	平年より多かった。	本種の発生量が多く、施設内への飛び 込みも多かった。	定期的な薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	11～3月にかけて平年より多かった。	発生初期の薬剤散布が徹底されなかっ た。	薬剤散布または天敵放飼が行われた。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	本病に対して効果の高い薬剤により防除された。	定期的な薬剤防除が行われた。
	黒斑・褐斑病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	本病に対して効果の高い薬剤により防除された。	定期的な薬剤防除が行われた。
	ウイルス病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	媒介虫であるアザミウマ類の保毒虫率が低かったと考えられる。	アザミウマ類の薬剤防除が行われた。
	半身萎凋病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	伝染源が少なかったためと考えられる。	常発ほ場では土壌消毒が実施された。
	ハダニ類	平年：並 前年：早	平年：やや多 前年：やや多	発生は平年よりやや多かった。	気温が高く推移したことにより増殖が助長された。	薬剤防除が実施された。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一部のほ場で多発したが、全体的には平年並であった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	親株ほ場および本ぼで定期的な薬剤防除が実施された。
	アラムシ類	平年：並 前年：早	平年：やや少 前年：やや多	発生は平年よりやや少なかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	数回の薬剤防除が実施された。
	カスミカメムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は認められなかった。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	数回の薬剤防除が実施された。
	マメハモグリバエ	平年：早 前年：－	平年：並 前年：多	発生時期は平年より早かったが、発生量は平年並であった。	高温により増殖が早まったと考えられる。	薬剤防除が実施された。
	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	巡回調査では発生は認められなかった。フェロモントラップにおける誘殺数は平年並に推移した。	本種に対して効果の高い薬剤により防除された。	数回の薬剤防除が実施された。